



「諸業高名録」は三国街道の宿場の広告・道中案内として木版印刷されたものです。各店が掲載料を払い、店の紹介広告を載せていますが、全ての宿を網羅しているわけではありません。現代でいえば旅行のガイドブックのようなものでしょう。天保年間金古宿（現群馬町金古）眼医久良左右（天田倉蔵）が発起人で、自らの医道修行も兼ねて三国街道・北国街道を回り、広告料を各地の商家などから集めました。同じ金古宿の松屋秀吉が販売元と考えられます。原本は縦13.5cm、横19cmで、江戸時代後期の三国街道の宿場の様子を知ることができます。

上は「諸業高名録」版元の松屋秀吉（飛脚・商人衆御休泊定宿）の店です。店では薬の販売も行っており、店先にはさまざまな薬が売られています。ここでは、久良左右が眼科を開業していました。さらに高札場も描かれています。高札場は、諸法令を記した高札を掲げた場所です。宿場や名主の家の前など人通りの多い場所や目立つ所に設置されました。

右は、金井宿（現渋川市金井）小野村九蔵の飲食店で、「御酒さかな そは（そば）うどん（うどん）御料理」とあり、御休所と書いてあります。

（参考資料）『群馬県史』通史編5 693～698頁

